

心理学 専攻 基礎心理学 コース（博士前期）

試験科目：専門科目（心理学）

試験時間：（120）分

問Ⅰ（解答のポイント）

「APA心理学大辞典（培風館）」「心理学 新版（有斐閣）」など、心理学及び関連領域に関する各種辞典や専門書にあげられている、心理学の基本的（辞書的）定義が簡潔に述べられていること。

問Ⅱ（解答のポイント）

- (1) 境界性パーソナリティ障害の概念を理解し、その臨床的意義を理解していることが求められる。その上で、理解している内容を論理的に記述することが求められる。
- (2) スーパービジョンとコンサルテーションについて、その定義が記述され、指導をする者とされる者、あるいは助言をする者とされる者という関係性の違いを元に説明が行われていること、コラボレーションが多職種連携であるという点が明確に書かれていることが基本となる。基本的なポイントとなる。
- (3) 強迫症に対する認知行動療法において曝露反応妨害法の実施が重要であることを理解した上で、論理的に記述することが求められる。
- (4) ①素因とは、発症前からもつ脆弱性で、今回の発症に影響したものである。遺伝素因、家族・学校・地域の要因等である。以下今回の事例に沿って、素因について述べる必要がある。②誘発因子は、発症に直結した出来事である。本人に直接起こる場合も、家族や環境に起こり本人に間接的に影響する場合もある。以下今回の事例に沿って、誘発因子について述べる必要がある。③永続因子は、状態の改善を妨げる因子である。症状によって引き起こされた二次的な不安や混乱なども含まれる。素因が永続因子とかなさることも多い。以下今回の事例に沿って、永続因子について述べる必要がある。④保護因子は、状態の悪化に抵抗し、問題に対処しようとする能力のことである。回復のプロセスで重要であり、予後予測にも重要な役割を果たす。以下今回の事例に沿って、保護因子について述べる必要がある。
- (5) メンタライゼーションは自分自身や他者の行動の背後にある心や精神の状態を認識する状態を指すこと、養育者との良好で共感的な関わりによって形成されること、境界性パーソナリティ障害者の治療研究から発展した概念であることなどについて述べられていること。

- (6) 三原色および反対色表現，残効現象や恒常性といった知覚・認知における現象と，網膜錐体細胞，神経節細胞および外側膝状体，大脳皮質処理との関係が論じられている。
- (7) 横断的研究と縦断的研究について、方法の違い・特徴を説明し、それぞれのメリット、デメリットを少なくとも1点ずつ挙げる事が求められる。その上で、理解している内容を論理的に記述することが求められる。
- (8) 利他行動および間接互惠性の概念を理解し、利他行動が間接互惠性の成立によって進化していることを理解していること。
- (9) 正答率、G-P 分析などの項目分析で用いられる用語を理解していることが伝わるように、論理的に具体的に記述できていること。

心理学 専攻 臨床心理学 コース（博士前期）

試験科目：専門科目（心理学）

試験時間：（120）分

問Ⅰ（解答のポイント）

「APA心理学大辞典（培風館）」「心理学 新版（有斐閣）」など、心理学及び関連領域に関する各種辞典や専門書にあげられている、心理学の基本的（辞書的）定義が簡潔に述べられていること。

問Ⅱ（解答のポイント）

- (1) 境界性パーソナリティ障害の概念を理解し、その臨床的意義を理解していることが求められる。その上で、理解している内容を論理的に記述することが求められる。
- (2) スーパービジョンとコンサルテーションについて、その定義が記述され、指導をする者とされる者、あるいは助言をする者とされる者という関係性の違いを元に説明が行われていること、コラボレーションが多職種連携であるという点が明確に書かれていることが基本となる。基本的なポイントとなる。
- (3) 強迫症に対する認知行動療法において曝露反応妨害法の実施が重要であることを理解した上で、論理的に記述することが求められる。
- (4) ①素因とは、発症前からもつ脆弱性で、今回の発症に影響したものである。遺伝素因、家族・学校・地域の要因等である。以下今回の事例に沿って、素因について述べる必要がある。②誘発因子は、発症に直結した出来事である。本人に直接起こる場合も、家族や環境に起こり本人に間接的に影響する場合もある。以下今回の事例に沿って、誘発因子について述べる必要がある。③永続因子は、状態の改善を妨げる因子である。症状によって引き起こされた二次的な不安や混乱なども含まれる。素因が永続因子とかなさることも多い。以下今回の事例に沿って、永続因子について述べる必要がある。④保護因子は、状態の悪化に抵抗し、問題に対処しようとする能力のことである。回復のプロセスで重要であり、予後予測にも重要な役割を果たす。以下今回の事例に沿って、保護因子について述べる必要がある。
- (5) メンタライゼーションは自分自身や他者の行動の背後にある心や精神の状態を認識する状態を指すこと、養育者との良好で共感的な関わりによって形成されること、境界性パーソナリティ障害者の治療研究から発展した概念であることなどについて述べられていること。

- (6) 三原色および反対色表現，残効現象や恒常性といった知覚・認知における現象と，網膜錐体細胞，神経節細胞および外側膝状体，大脳皮質処理との関係が論じられている。
- (7) 横断的研究と縦断的研究について、方法の違い・特徴を説明し、それぞれのメリット、デメリットを少なくとも1点ずつ挙げる事が求められる。その上で、理解している内容を論理的に記述することが求められる。
- (8) 利他行動および間接互惠性の概念を理解し、利他行動が間接互惠性の成立によって進化していることを理解していること。
- (9) 正答率、G・P分析などの項目分析で用いられる用語を理解していることが伝わるように、論理的に具体的に記述できていること。

心理学 専攻（博士後期）

試験科目：専門科目（心理学）

試験時間：（120）分

問I（解答のポイント）

- (1) 精神分析的心理療法における逆転移について、その現象およびその意義を理論的に理解し、さらに、その臨床的意義を理解していることが求められる。その上で、理解している内容を論理的に記述することが求められる。
- (2) ノーマライゼーション、双方向性、文化等属性への配慮、エンパワメントなどトラウマを負った方への支援の基本を押さえた記述が3点以上行われ、それらが被災者・被害者にとってなぜ重要かが書かれていることが評価のポイントとなる。
- (3) 留意点として、Aさんがいづく認知行動療法への期待と、担当者が提供できるものがずれている可能性があることを理解し、その上で適切な対応について具体的に述べることが求められる。
- (4) ①「事例報告」はトレーニングのためのものであったり、困難な対応をスタッフ間で検討・協議したりするために行われる：事例に基づく訓練（山本、2018 pp.37-38）
それに対して「事例研究」はリサーチである。この点を具体的に、明確に述べている必要がある。
② 対象者（または代諾者）に事例公表の承諾を得る。その上で同意を得たことを論文中に記載する。このことに触れるのは必須である。対象者がどこの誰であるかわからないように匿名性を保つ。このことについて具体的に必要にして十分に述べられているかによって採点する。
- (5) 治療の行き詰まりについて理論的に理解し、発生要因やその機序について、治療契約や転移などの観点を含めつつ総合的に論じられていること。その上で、行き詰まりの打開のために、臨床的な関わりとその意義について具体的に論じられていることが求められる。
- (6) 直接プライミングや間接プライミングについて、特に意味記憶における活性化拡散モデルやスキーマの埋め込み構造の観点から、意味・概念的な関連性が関わることが論じられている。さらに、先行手がかりにより後続刺激の認知が促進されることを、反応時間や正答率の計測により実証することが述べられている。

- (7) ヒトの生物学的な発達の特徴、子育ての特徴を理解し、それらの特徴を現代日本の子育ての問題と関連付けて議論することが求められる。その上で、理解している内容を論理的に記述することが求められる。
- (8) 一般的な研究倫理（研究不正や研究費の適正使用など）の遵守に加え、生体からのデータを取る心理学において重要となる対象保護およびデータ管理、さらに近年話題となっているQRPsに関する言及がなされていること。またそれに対する自身の考えが明確かつ論理的に主張できていること。
- (9) 質問項目、相互独立などの語句を含み、内容を論理的に述べていること。具体例を効果的に示していること。